

女性のための心とからだセミナー

日程が
決まりました!!

フェムテックと「女性の健康」 ～生理・妊娠・更年期～

フェムテックとは、女性を意味する「Female(フィメール)」と技術を意味する「Technology(テクノロジー)」を掛け合わせた造語で、月経・妊娠・更年期など女性が辿るライフステージの健康課題をテクノロジーで解決する新しいサービスや製品のことで。

女性活躍推進が叫ばれ、社会進出が進む中、月経(生理)による不調や更年期などに悩みながら、我慢して仕事をやり過ごす女性も少なくありません。そんな女性特有の健康課題を放置することは「社会損失」につながるとの認識が広がり、女性の健康を支える商品や技術、サービスを意味する「フェムテック」が世界的に注目されています。

今回の講座では、県内におけるフェムテック市場の現状や県外企業の取り組みなどの取材をされた、沖縄タイムス社の新垣記者と佐渡山記者をお招きし、市民へのヘルスリテラシー向上のためのお話をいただきます。

日時：10月7日(土) 午後2時～4時

場所：IT創造館2階(なは市民協働プラザ隣)

定員：36人(事前申込先着順) 対象：関心のある方

場所が
変わりました!



講師：新垣 綾子さん
(沖縄タイムス社DX戦略局デジタル
編集部副部長)

☆プロフィール (あらかき あやこ)

2000年に沖縄タイムス入社。社会、くらし、県政、スポーツなどを取材し、現在はデジタル編集部記者。手掛けた連載には、沖縄の高齢者問題を追った「銀髪の時代～『老い』を生きる」や、精神障がい者差別の歴史を取り上げた『座敷牢』の闇で～私宅監置を考える」など。貧困ジャーナリズム賞に「精神障がい者の私宅監置」表彰受賞。



講師：佐渡山 倫子さん
(沖縄タイムス社営業局営業部
主任)

☆プロフィール (さどやま りんこ)

2007年に沖縄タイムス入社。文化事業局(イベント企画運営)や編集局(記者)を経て、営業局営業部主任。2022年11月～2023年4月、沖縄タイムス社SDGs企画「Step with you～」を企画。勉強会内容や紙面内容、フェムテックイベントの運営に携わった。



講座のお申込みは、
右記のQRコードからできます。

*市在住・在勤・在学の方は手話通訳が利用できます。9月29日(金)までにお申し込みください。なお、一時保育は当面の間、休止いたします。

なは女性センターを利用される皆さまへ

体調のすぐれない方は、ご利用をお控えください。なお、ご利用の際のマスク着用につきましては、政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」に沿い、個人の判断に委ねることといたします。

講座を 終えて

講座名:「ハンセン病と女性」～金城幸子さんの人生を通して考える～

開催日:2023年9月2日(土) 午後2時～4時 参加者:20人

講師:金城 幸子さん(ハンセン病回復者)・山城 紀子さん(ジャーナリスト)



『ハンセン病だった私は幸せ』の著者である金城幸子さんとジャーナリストの山城紀子さんの対談を通してハンセン病に対する偏見や差別について参加者と共に考えました。

ハンセン病の症状があらわれた8歳の頃、久高島に戻って生活を始めた幸子さんは、みんなと一緒に遊びたくてたまらなくなり、隠れるようにしてときどき学校の様子をのぞきに行っていました。ある日、校庭で遊んでいた子どもたちが幸子さんを見つけて、石や唾を吐きかけてきました。投げられた石が頭に当たっても、みんなと一緒に遊びたい一心の幸子さんは、逃げませんでした。そこへ、女性の先生が走ってきて、先生は幸子さんをかばうどころか、「早く学校から出て行きなさいっ!」と、恐ろしい顔で、棒を振り上げて追いかけてきたのです。今でも時々、夢に出てくるほどの恐ろしい体験です。

そのことについて、幸子さんは、石や唾を吐いた子どもたちが大人になって、当時の行為に罪悪感を持っているのではないかと、胸を痛めているのです。当時の子どもや先生の行為は、「無知」がそうさせたのだとして、既に赦しているのです。

苦しみから逃げずに、苦悩を引き受けて生きてこられた幸子さんのお話を聴き、心の深化こそが人間の成長で

あり、社会を変える力であることを改めて考えさせられました。

人一倍好奇心が強く、生みの母親をはじめ、育ての母親や周りの人々に愛された幸子さんだからこそ、「社会を変える」エネルギーが発揮されたのだと確信しました。

温かい雰囲気か漂っていた会場で、山城さんのリードのもと、幸子さんは、気持ちのおもむくままに話されていたのが印象に残りました。

日本では、ハンセン病に対する無知から90年近くもの間、強制隔離政策が行われました。国が、偏見や差別意識を助長し、強化したと言っても過言ではありません。

誰もが差別や偏見の被害者、または加害者になりえるのです。差別をなくすために私たちにできることは、「異なるもの」を知ることです。差別を生むのは「無知」から来る「恐れ」だと知りました。

社会には、あらゆる差別が存在していることを認め、「すべての人が差別を受けることなく自由に生きられる社会を目指したい!」と思うほど、幸子さんから大きなチカラをチャージしてもらいました。幸子さん、「よくぞ、生き延びてくださいました!あなたに続く私たちの未来に勇気と希望を与えてくださいました!」と、何度でも感謝の気持ちを伝えたいです。



▲講話中の様子。山城紀子さん(左)・金城幸子さん(右)

▶お二人の講話に、受講者は熱心に耳を傾けていました。



●参加されてのご意見、ご感想、メッセージ

☆差別の重圧にも負けず、立ち上がってくださった金城さん、ありがとうございます。勇気をもらいました。(70代)

☆山城さんのトークはとてもわかりやすく、初めて聞く方にとっても、ハンセン病に対する知識や幸子さんのことをよく理解されていて、わかりやすい説明でした。今後もお二人で講演することをおすすめします。(50代)

☆お話を聞くことができ勉強になりました。社会の在り方に対して、差別に対しての“怒り”の大切さを改めて考えました。そして、当事者である幸子さんの言葉は他の方々を代弁する貴重な声で、今後も発信して欲しいと思います。「法律が正しいとは限らない!」という言葉、本当にそうです。その法律をつくる国会、決まった法律に従う行政…、しっかり政治を変えて行かないと!と思いました。(50代)

☆健康に気をつけて、これからも活動を続けて頂きたいと思います。大変すばらしい対談で感動しました。(80代)

☆幸子さんのお母さんが、強制堕胎から逃れるため、勇気ある「脱出」を図ったからこそ、幸子さんが生まれたのだと知りました。本当に愛されていたんですね。涙をこらえながら聴いていました。幸子さんの生の声が聞けて良かったです。勇気をいただきました。(60代)

☆台湾の楽生院に見学に行ったことを思い出し、ハンセン病について学びたいと考え参加しました。幸子さんのお話を生で聴くことができ本当に良かったです。(30代)





男性更年期を考える

「この頃、疲れやすく、やる気が出ない」「睡眠のリズムが乱れやすく、夜間に目が覚めて眠れない」「お腹周りに脂肪がつく」などの変化が見られませんか？

もしかしたら、男性ホルモン「テストステロン」の減少の影響かもしれません。研究が進み、テストステロンの減少により、判断力や理解力、記憶力などの認知能力の低下などを引き起こす場合があることも分かってきました。

本講座では、泌尿器科専門医の米納浩幸医師に「男性更年期」の症状と正しい対処法を学び、男性の心や身体の健康について考える機会とします。

日時：11月9日(木)
午後7時～8時30分

講師：米納 浩幸 さん
(ヒルズガーデンクリニック 院長)

会場：なは市民活動支援センター会議室
(なは市民協働プラザ2階)

対象者：関心のある方
定員：36人(事前申込先着順)

*市在住・在勤・在学の方は手話通訳が利用できます。
11月2日(木)までにお申し込みください。なお、一時保育は当面の間、休止いたします。

●講師プロフィール



1991年琉球大学医学部医学科卒業後、琉球大学医学部泌尿器科に入局。1999年国立がんセンター研究所支所にて政府の「がん克服新10か年戦略」事業の「がん克服研究」に参画。医学博士取得後、2004年テキサス大学サンアントニオ校に留学。帰国後、東京医科大学泌尿器科講師、琉球大学医学部泌尿器科講師として勤務したのち、2011年那覇市松川にヒルズガーデンクリニックを開設し現在に至る。

2011年より2年間ラジオ番組「シッ得！ナッ得！泌尿器科」、「健康花盛り」を担当していた。資格：日本泌尿器科学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医、日本医師会認定産業医など。

講座のお申込みは、下記のQRコードからできます。



Book

★なは女性センターでは、女性問題やジェンダーに関する図書の貸し出し及び資料の閲覧ができます。貸出し期間：2週間 お一人2冊まで

『失敗しないためのジェンダー表現ガイドブック』

新聞労連ジェンダー表現ガイドブック編集チーム 著/福田 葉子 編集/株式会社小学館発行/2022年3月発行

「女子高生、女子アナ・・・」その「女」必要ですか？

今月紹介する一冊は、『失敗しないためのジェンダー表現ガイドブック』です。ジェンダー平等という考え方は広く浸透しつつあるものの、日常生活で出会う、言葉の端々に見え隠れした差別や偏見にもやもやした経験はありませんか。例えば、よく聞かれる表現に「嫁・奥さん」「主人・旦那さん」がありますが、たとえ発言者に悪意がなかったとしても、無意識に偏見をばらまき、追認していることになってしまいます。

この本は、日々、多様な視点が確保された表現について向き合っている新聞業界で働く方々が、なぜこの表現がだめなのか、背後に潜む構造や問題を解説することで、理解を深めながら新しい表現を模索するきっかけを提示しています。個人の中にある偏見や思い込みをはがす作業は、ひとりでは難しいもの。本書は「自由だからこそその表現の在り方」を教えてください。



なは女性センターの
交流室で、毎月お知らせして
います。ぜひ、お立ち寄り
ください！



相談室「ダイヤルうない」

周囲に話せる人がいない、自分の気持ちをわかってもらえない。そんな時、「ダイヤルうない」を利用していませんか。生きがい、家庭の問題など、女性の抱える様々な相談に応じ、自分の意思で人生を選択するために情報提供し、サポートします。

- 電話相談
- 面接相談(女性のみ・要予約)
- 法律相談(女性のみ・予約制)

 **098-861-7515**

月～土 午前9時～12時／午後1時～5時

「ストップ・DV」情報提供

相談室「ダイヤルうない」では、ドメスティック・バイオレンス(DV)で悩む方を支援するための情報提供を行っています。詳しくは相談室「ダイヤルうない」へお問い合わせください。

性の多様性に関する相談

あなたが「自分らしい生き方」を自らの意思で選択できるように、一緒に考えます。どなたでもご相談ください。

周辺地図



● モノレール「古島駅」から10分

路線バス

- 新都心区内(10番)なは市民協働プラザ前バス停すぐ(8番)銘苅1丁目バス停5分 (99番)那覇国際高校前7分
- 県道82号線側 古島バス停10分
- 国道330号線側 真嘉比バス停・興南高校前バス停各10分

駐車場のご利用について

「なは市民協働プラザ」の地下駐車場は現在閉鎖中のため、消防局隣の「ナハメカルパーキング」をご利用ください。ご利用は**有料**です。センター利用者は、料金の一部が免除されますので「駐車券」を事務室にお持ちください。

☆なは女性センター利用者の一部免除料金

最初の2時間まで	100円
最初の2時間を超え1時間ごとに	100円
※利用時間が1時間に満たない場合は1時間として計算。	

那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録

「那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録」は、市長がパートナーシップ・ファミリーシップの関係にあると認めた場合、その関係について登録簿へ登録し、「登録証明書」及び「登録証明カード」を交付するものです。

登録数 56組

2023年9月15日現在

*これまでに登録された方へも「登録証明カード」の交付ができます。

- 「性の多様性を尊重する都市・なは」宣言(レインボーなは宣言)の理念に基づく取り組みです。登録によって何らかの法律上の効果(相続、税金の控除など)が生じるものではありません。

■お問い合わせ・申請の予約

TEL. **098-951-3203** ◆月～金:午前9時～午後5時

* 祝日、慰霊の日(6/23)、年末年始(12/29～1/3)を除く

レインボー交流会の開催について

「交流の場がほしい」「性の多様性について語りたい」といった声から生まれた誰でも参加できる交流会です。

開催日時: 2023年9月30日(土) 午後2時～4時

場所: なは市民活動支援センター 会議室
(なは市民協働プラザ2階)

主催: 市民団体ていーだあみ

メール: tiidaami.okinawa@gmail.com

※「レインボー交流会okinawa」で検索すると、フェイスブックで最新情報を確認できます。



with you おきなわ

沖縄県性暴力被害者ワンストップ支援センター

はやくワンストップ 24時間 365日

TEL **#8891**

※繋がらない場合は、098-975-0166へ

性暴力の被害にあわれた方の意思を尊重しながら、医療的支援を含めた必要な支援を行っています。24時間365日体制で相談を受け付けていますので、いつでも相談できます。

◆なは女性センター講座について

*受講希望の講座は、なは女性センター窓口、電話、FAX、申込みQRコードでお申し込みください。また手話通訳、一時保育(現在休止中)の利用は、那覇市在住・在勤・在学の方が対象です。(事前予約が必要)

お問合せ

那覇市銘苅2-3-1(なは市民協働プラザ1F Aコア)

TEL. **098-951-3203**

FAX. **098-951-3204**

Email: s-heidan002@city.naha.lg.jp

なは女性センターホームページQRコード →



なは女性センターは、現在、冷房機の故障により学習室のご利用を休止しています。それに伴い、当面の間、開館時間を下記の通り短縮いたします。当センターをご利用者の皆さまには、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

開館時間	休館日
月～金:午前9時～ 午後5時	年末年始(12/29～1/3)
土曜日:午前9時～午後5時	日曜日・祝日・慰霊の日(6/23)

